



約200名の読者から寄せられた「思い出・メッセージ」 ありがとう中日劇場 紙面特集

中日ビルの建て替えに伴い、今年の3月末に閉幕する中日劇場。地域に親しまれてきた劇場の“最後を飾る紙面を”と特集を企画し、掲載に至りました。

昭和41年の開場から50年余の歴史の中で、思い出のある読者も多かろうと、読者の声を反映させた内容としました。スペースの都合上、一部の声しか載せることができませんでしたが、あらかじめ新聞で募集した「中日劇場の思い出・メッセージ」には200名ほどの応募があり、反響の高さがうかがえました。また、50年の軌跡をたどる年表も入れ、劇場ファンが閉幕後も紙面を残して保管してもらえるような工夫も凝らしました。

そして、35年連続で公演を重ね、4月に開場する御園座にて引き続き上演を予定する加藤登紀子さんにも登場いただきました。加藤さんの想いを伝えることで、“中日劇場の名がなくなったのちも名古屋に根付いた文化は継承されていく”というメッセージを発信しています。

今回の特集では、中日ビルタウンや映画演劇関係の広告主からも趣旨の賛同を得て、出稿をいただきました。今後も、地域の文化を伝える企画をつくっていきたくと考えています。

名古屋本社 広告一部 伊藤俊輔

読者から寄せられた思い出・メッセージを紹介

2018年2月15日付 中日新聞朝刊30段

■「思い出・メッセージ」の募集告知

ありがとう中日劇場
中日劇場の「キャンペーン」
思い出・メッセージを応募して
素敵な賞品を当てよう

募集期間：1月15日(月)～26日(金)

応募方法：中日劇場のホームページから応募フォームをダウンロードし、思い出の写真を添付して応募してください。

抽選：1月27日(土)抽選。当選者は、中日劇場のホームページから発表されます。

賞品：当選者には、中日劇場の思い出の品をプレゼントします。

お問い合わせ：中日劇場 企画部 電話 052-551-0001

2018年1月14日付 中日新聞朝刊 半5段

約200名の読者から寄せられた「中日劇場の思い出・メッセージ」(一部)

私が初めて中日劇場で観たのは、「ザ・ピーナッツ・ショー」。双子の舞妓姿で、かわいかった。そして、二部の「ザ・ヒット・パレード!」。生の音響に魅了され、今でもその時の感動は忘れていません。(茜さん)

1966年、ミュージカル「南太平洋」にエキストラとして出演しました。人生で最高の思い出と感動をもらいました。(女優になりたかった私さん)

2013年10月、彼との初デートで、中日劇場でレ・ミゼラブルを観ました。幕間に私が手作りおにぎりを渡したのが好印象だったと後に教えてくれました。そして彼は現在の私の夫です。(ちえさん)